



ぼらんていあ通信

8月号
通巻 No.453

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2019年8月20日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamiva.info/



『障がいとは〇〇である』をグループで考える

障がいと思われるものを探す。足回りが不備、階段、エレベーターがない、字が読めないなどをみつける。
次にビデオを見る。仮想だが、障が

いのある人たちがばかりの生活する町の中では逆に健常者は生活しづらい事になる。障がいという目、耳、手、足など体の不自由さを思い浮かべるが、そうではなくて環境の障がいが身の回りに多いということだ。色々なところでバリアフリーが進むように環境を変えていくことが大切である。スーパーの車いすかないように広く空けておくなどもそのひとつだ。障壁のない共生社会にするように皆で注意、協力をしなければいけない。講師の谷内先生も弱視だそうだ。その見え方も人によって様々でまわりの人への説明もむずかしい。自分がこうしてほしいということを実体的に頼んで周りに環境を整えてもらうことが大事とおっしゃった。

後半は車いす体験と介助。神奈川県立さがみ緑風園の染谷圭子先生と大岩智輝先生による、安全な車いす操作についてと緑風園の紹介。緑風園は南区麻溝台にあり、肢体不自由の方が生活している。デイサービスも利用でき、ボランティアさんも様々たくさんいる。お祭りなどの行事もいろいろあり、ぜひ来園していただきたいという声だ。
車いすには大きく分けて、介助者が押すものと乗車している人が自身で操作するものがある。今回は介助者が押すものについて学ぶ。

『障がいの社会モデルから考える』と題して、桜美林大学准教授の谷内孝行先生による講義。どういことが障がいなのか、どんなことで社会生活に不便があるのかを考えてみる。グループワーク形式で4、5人に分かれ、用意されたA3用紙の上半分に『障がいとは〇〇である』の〇〇の中に自分で思う言葉をいれる。グループで見せ合う。障がいとは「なに」? 「なに」にある...絵を見てその中に

後半は車いす体験と介助。神奈川県立さがみ緑風園の染谷圭子先生と大岩智輝先生による、安全な車いす操作についてと緑風園の紹介。緑風園は南区麻溝台にあり、肢体不自由の方が生活している。デイサービスも利用でき、ボランティアさんも様々たくさんいる。お祭りなどの行事もいろいろあり、ぜひ来園していただきたいという声だ。
車いすには大きく分けて、介助者が押すものと乗車している人が自身で操作するものがある。今回は介助者が押すものについて学ぶ。

ボランテニア基礎講座 第2回目
7月13日(土)午後1時半~4時半
市民会館2階 第2大会議室
*講義 対人ボランティア活動で大切な基礎姿勢を学ぶ「人と人とのかわり」
講師 稲富正治先生
(川崎 幸クリニック 臨床心理士)
第2回目の基礎講座前半は恒例の稲富先生の講義と、後半は「わたしの会」による実技となる。受講生は20人。
稲富先生はまず臨床心理士としての自己紹介をしながらこれまでの様々な経験を基にした対人援助者としての「コミュニケーション

『障がいとは何か?』
『障がいの社会モデルから考える』と題して、桜美林大学准教授の谷内孝行先生による講義。どういことが障がいなのか、どんなことで社会生活に不便があるのかを考えてみる。グループワーク形式で4、5人に分かれ、用意されたA3用紙の上半分に『障がいとは〇〇である』の〇〇の中に自分で思う言葉をいれる。グループで見せ合う。障がいとは「なに」? 「なに」にある...絵を見てその中に

逆にある人たちがばかりの生活する町の中では逆に健常者は生活しづらい事になる。障がいという目、耳、手、足など体の不自由さを思い浮かべるが、そうではなくて環境の障がいが身の回りに多いということだ。色々なところでバリアフリーが進むように環境を変えていくことが大切である。スーパーの車いすかないように広く空けておくなどもそのひとつだ。障壁のない共生社会にするように皆で注意、協力をしなければいけない。講師の谷内先生も弱視だそうだ。その見え方も人によって様々でまわりの人への説明もむずかしい。自分がこうしてほしいということを実体的に頼んで周りに環境を整えてもらうことが大事とおっしゃった。

必ず声を掛けてから動かすこと・急発進は禁物・ゆっくりとスタートする・動かし始める間も状況に応じて声を掛ける・止めた時はブレーキを必ずかけるが基本。車いすは初めてという受講生が体験してみるのは力任せではうまく動かせず四苦八苦の様子もみえた。
そして実際に外に出て、あじさい会館の周りを2班に分かれて先生の指示に従って動かし。少しの坂道でも前向きに押すか後ろ向きで押すかといった注意も必要だ。
最後の感想では「車いすに乗ると目線が低いので景色が違って見えた。乗る人と押す人の意思の疎通が大切だ。道の悪い所を押す人の大変さもわかった。などが聞けた。
(植野)

今年も『ボランテニア基礎講座』全3回 終了しました!

ボランテニア基礎講座 第1回目
7月6日(土)午後1時半~4時半
あじさい会館の階展示室

ヨンの取り方について、自身の数多くの体験談を例としてあげて話された。その中から興味深い点をいくつか取り上げた。

①ストリスが起きるのは人間関係から。
②いじめた人は忘れてしまいが、いじめられた人は忘れない。

③相手(利用者)に思っていることを十分に吐き出せるのが良い。

④本人のタイクドな感情を汲み取る。

⑤相手の話は耳を使い、目を使い、心を使って聴く。

⑥話を聴くときは柔らかな表情で聴く。優しさや誠実さは相手に安心感をもたらす。

⑦何かをしてあげるとはななく、こころに真剣に聴く。そこへ寄り添っていくこと。

⑧自分の取っている「コミュニケーション」について反省してみる。おとなりにならない様にするため。

利用者へ対人援助者としてのスムーズな「コミュニケーション」を行う上にな適切なことを学んだ。

*実技 「視覚障がい者の接し方」

相模原誘導グループの会会員

まず、それぞれの会の肥田さんが視覚障がいについて、視覚障がい者の現状を詳しく話される。その後疑似体験としてロービジョンと言われる弱視を体験するメガネが配られ、メガネをかけてみるとこんな風に見えるのかを知る。かけてみる



講師の稲富先生

ると目に白くもやがかり字がぼやけて見えた。白杖は視覚障がい者のシンボルとしての働きもするこの話があった時に白杖を持って歩く障がい者が困っている様子

を駅などで見かけた際には、

・勇気を出して一歩踏み出して、ぜひ声をかけてあげてほしい。
・やさしく声をかけて助けてあげてほしい。

と話され少しの勇気をだして手助けすることがとても大切なのだと思った。

次に実技になり受講生が二人一組になって一人は目をつぶった状態で歩く体験をする。会場の部屋を出て階段を降り、外へ出て、左右に曲がったり、ベンチに腰掛けてみたりした。筆者もかつて経験したが、目をつぶって歩くということが例えパートナーの助けがあったとしてもどんなに怖いことが受講生の共通の体験となった。その会の方が展示用に用意した缶ビールやシャムの瓶には商品を示すため打ちこまれた点字があったが、初めて気づいた。有難うございます。(小林)

ボランティア養成講座 第3回目(最終回)

7月20日(土) 午後1時~4時半

あじさい会館の階展示室 出席者20名



今回は3部構成で進められた。第1部はコース別講座開講予定の外出援助、音訳、高齢者支援、福祉車両の運転・介助、傾聴コースの内容の説明と、ボランティア協会、社会福祉協議会の紹介があった。

第2部は現在活動中の5名が「私とボランティア活動」というテーマで活動を始めたきっかけ、活動を通して得た喜びやむずかしさ、受講生の方に伝えたいことなどを発表。発表者は磯崎さん(外出援助)、門倉さん(音訳)、加藤さん(福祉車両)、長谷川さん(高齢者支援)、日高さん(傾聴)。その内いくつかを紹介する。オンラインを通していた体育館で車いすの



発表者の皆さん
左から磯崎さん 門倉さん
加藤さん、長谷川さん、日高さん

入れるよう心がけている(傾聴)。〇日程をきながらいろいろやりたい。〇家族の理解と協力を得て少しだけがんばる等々皆さんの発表を聞いていて、10年以上活動している人も始めたばかりの人もボランティア活動に対する思いは同じ。やさしく相手との信頼関係だと感じた。

第3部はコース毎に分かれて説明と相談になった。夏休みをはさんでほとんどの講座が秋から始まる。すでに何かのボランティアをしている方も数名おられ、実習や実技で具体的な勉強をしてボランティア活動の第一歩を踏み出してほしい。(三十尾)

9月の記念日は?

小倉義男

9月9日、カーネルズ・デー。
ケンタッキーフライドチキンの創業者であるカーネル・サンダースが1890年9月9日に生まれたことを記念して、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社が2003年に制定。店の看板?アイドル?とも言えるカーネルおじさんの像は、本来は白いスーツですが、店が赤のイメージなので、あえて赤にしました。(笑)

(HPで確認してくださいね)

小倉画



ボランティア活動グループ訪問記



「相模原おもちゃドクターの会」
おもちゃもったいないセンター &
おむねの病院見学

今月の訪問先は相模原市立環境情報センターで毎月第4日曜日に開かれて

いるおもちゃの交換会と修理。その名もおもちゃもったいないセンターとおもちゃの病院。運営しているのは相模原おもちゃドクターの会。ウエルネスがみはらの交差点で待合室をしたら、大きな袋をかかえた親子が何組も環境情報センターに入って行った。玄関前には「おもちゃもったいないセンター」と「おもちゃの病院」ののぼり旗が出ている。

1階は「おもちゃもったいないセンター」で使わなくなったおもちゃの交換会が開かれていた。赤ちゃんから小学校低学年が遊ぶようなつかい木の積木、ミニカーや変身人形などが所せましく並んでいる。ここでおもちゃもったいないセンターの担当・吉成さんにお話を伺った。相模原おもちゃドクターの会(代表中山英夫さん)はボランティアをおもちゃの病院(おもちゃもったいないセンター)を運営して活動メンバーは60名(女性1名)おらわねの。その道の専門家も異分野の方も皆々とおもちゃに愛情をこめて、おも



中央の立っている方が吉成さん



ちゃを治すことが好きでたまらない方たちと見受けられた。おもちゃの病院は平成12年に上鶴岡子でもセンター

いで誕生し、現在は地区の子どもセンターやリサイクルスクエアなどで日を決めて活動しているようだ。おもちゃもったいないセンターは環境情報センターだけで開催している。市外から交換に来る人もいる。このおもちゃで遊びのが楽しくて一日中遊んでいるお子さんもいるようだ。まず持参したおもちゃを受付で査定してもらいポイントを付けてもらう。そのポイント券でほしいおもちゃと交換する仕組み。1पी田で300Pまで。使わなくなったおもちゃの寄付もオーケー。なかなかもらい手が現れないおもちゃは海外に寄付する団体に託しているようだ。オープンして6年目のこと。とても盛況。1回に1500〜2000名来場者があるようだ。7名のスタッフが活動していた。2階は「おもちゃの病院」になっていて、おもちゃドクターさん7名がそれぞれのテーブルでおもちゃを分解修理中。机の脇には各自持参の大きな工具箱。受付でカルテを作成。その場で修理不能のものは入院治療。ドクターさんが自宅へ持ち帰り修理完了時点で連絡してくれるようだ。お風呂で遊ぶアンパンマンのシャワーのおもちゃは内部がサビついている。細かい部品がたぐさあつても大変そう。チーフの安田さんによると環境情報センターだけで1回に500個近くのおもちゃが持ちこまれるようだ。

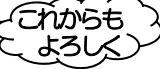
「この日はボランティアチャレンジスクールの高校生が2名参加して、それぞれ受付を手伝っていた。修理が終わるのを待っていたお子さんの手には一階で交換してきたおもちゃがあった。近くなので何度も来ています」と言う家族もあって、私達広報委員は初めて参加したけれど子供のいる家族には知られている事業なんだなと思った。自分が使わなくなったおもちゃや絵本を捨けないで他の人に使ってもらおう、自分で治せないものはドクターさんに治してもらおう、環境にもやさしい活動だとおもった。我が家にも子供や孫が遊んだ積木やジグソーパズルがあるのので今度持ってきて誰かに喜んでもらえたらいいなと思った。



2階のおもちゃ病院ではおもちゃドクターがそれぞれのテーブルで患者さんの分解修理中。患者は縫いぐるみやアンパンマンのシャワーなどさまざま。カルテもちゃんとある。



*おもちゃもったいないセンター & おもちゃの病院
主催 相模原おもちゃドクターの会
連絡先 代表中山英夫さん
042-756-3130



「ぼらんていあ通信」は、毎月、若者サポートステーションの皆さんに発送作業のお手伝いをしていただき、皆さんのお力にお支えをいただいております。作業現場からの声をお届けします。

ぼらんていあ通信は、毎月、若者サポートステーションの皆さんに発送作業のお手伝いをしていただき、皆さんのお力にお支えをいただいております。作業現場からの声をお届けします。
*緊張していただけ、協力して終わらせようことができました。*最初不安だったけれど、思ったより良かったです。*2回目の参加。数字は苦手だけれど楽しかった。*配置なご工夫してくれました。*クマの参加だったけれど、みんなテキパキしていて良かった。力になれたらいい。*テシカの仕分け作業は、絵柄を見るのが楽しかったです。



傾聴ボランティア講座 受講者募集！！



- ◆市内在住・在学・在勤の15歳以上
- ◆定員20人(先着順) ◆受講料1,000円
- ◆申し込み方法 FAX・メール・はがきに、あなたの郵便番号・住所・氏名・性別・年齢電話番号(できれば携帯番号も)を記載して申し込んでください。8月30日着まで受付。
【宛先】〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館内
ボランティア協会講座係宛
FAX : 042-759-7982
メール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp
- ◆問い合わせ:NPO法人相模原ボランティア協会
(月~土 午前10時~午後3時)
電話/FAX 042-759-7982

傾聴とは、人の話をただ聞くのではなく、注意を払って、より深く、丁寧に耳を傾けることをいいます。自分の訊きたいことを訊くのではなく、相手が話したいこと、伝えたいことを、受容的・共感的な態度で“聴く”ことを目指します。それによって相手の心が少しでも開放されるようサポートするのが傾聴のねらいです。

傾聴ボランティア講座の日程と内容

- ①9月13日(金) 13:30~15:30 市民会館第2中会議室
傾聴の大切さ・技法・気を付けたいこと-1
- ②9月20日(金) 13:30~15:30 市民会館第2中会議室
傾聴の大切さ・技法・気を付けたいこと-2
- ③9月27日(金) 13:30~15:30 市民会館第2中会議室
認知症の方への接し方(認知症サポーター講座)
- ④10月4日(金) 13:30~15:30 市民会館第1中会議室
講義と実技&活動相談会



理事会報告

8月10日(土) 定例理事会(理事のみな様)

一. 報告事項

◆広報委員会

講座など取材のためにはら通部会委員が参加写真撮影をする場合は講座担当が了解を得る。わくわく喜書を7月27日に発行した。

◆広報関係意見交換会を8月31日に開催する。

◆HCC委員会

ハンディキャブ10、11号車の6か月点検を実施した。

◆事務局委員会

次回委員会ではHCC委員会との意見調整のため合同委員会を実施する。

◆講座検討委員会

春講座の内容を検討している。

◆傾聴委員会

9月からのコース別講座を傾聴ボランティア講座として参加者を募集する。

二. 検討事項

◆利用者受入に関する課題について

・HCC委員会及び事務局委員会の意見調整等の経過を了承した。

◆ボランティア協会としての広報について

・広報のあり方を検討するための広報関係意見交換会開催を了承した。

三. その他

◆ほかふれ第3回幹事会 8月20日

◆相模原市総合防災訓練 9月1日

次回理事会 9月14日(土) 10時より

ボランティア協会 9月の予定

日	時間	内容
6(金)	13:00~	広報委員会ぼら通部会
11(水)	16:00~	幸せの黄色いレシートキャンペーン
14(土)	10:00~	定例理事会
21(土)	10:00~	ハンディキャブ委員会
	13:00~	事務局委員会
24(火)	13:00~	ぼら通9月号印刷
25(水)	13:00~	ぼら通9月号発送

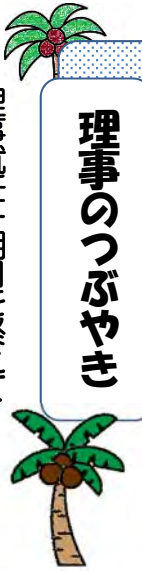
*9月28日(土)はあじさい会館全館休館日が入館不可の為、事務局は休みになります

ご寄付をありがとうございました。
皆様のご寄付は当協会の運営に有効かつ大切に使わせていただきます。
<7月の寄付者ご芳名>
6名の方からご寄付をいただきました。
<7月の寄付金>
総額 14,000円でした。

理事のつづき

理事就任一週目を終えて

石関 清美



早いものでボト協の事を良く分からないうちから理事になり一週目が終わりました。理事の皆様及び担当の委員会の皆様にご助けて頂いて何とか大過なく過ごす事が出来ました。

私にとって大きな事はハンディキャップ事業で南地区の利用者受入れ中止でした。長年南連絡所を担当していた者としては納得のいかないものでした。しかし運転ボランティア不足の為にしなければ仕方のないものでした。力及ばず現在も中止のままですが何とか再開の方向に向けて動き始めました。早期の再開を願います。

もう一つは外部会議「地域福祉推進協議会」にボト協の代表として2年間やっていたことと委員の皆さん「エエエエ」ボト協からは女性を出して欲しいという事で、年4回で2年だから是非「女性」を頼まれ、事前の引継ぎもななく何をやらせようかとも全く分からず行ってみれば何とかなるだろうと軽い気持ちで引き受けた(やるを得なかつた)ものの初回所用があり少し遅刻、中には入れず外で待たされ、終わって出て来たのは市長でした。これは大変な会議なので緊張が走りました。部屋に入る委員の皆さんはきちんと背広を着ておられ紳士、淑女、そして市の方々は福祉部長を始め要職にある方々が揃っておられました。出て見れば分かるように安易に構えていたのではパン姿の私はなると場違いな感じが

と...。自己紹介、今後話し合われる事の確認、分厚い資料を見て、大変なことに迷い込んでしまった...でした。一回目は私も何か発言しなければと前日から胸が張り裂けそうな緊張、ドキドキしながらの発言に場違いだったか後悔が残りました。

一年も終わりが皆様の話の中に加わる事が出来るようになった私なりに感じた事、疑問に思ったこと殆どボト協の事でしたを話させていただきました。有識者のみなさんは私の話を聞き流すこと無くきちんと対応して下さり有難いと思います。あつちの終わりますが、ボト協の代表として少しはお役に立てましたと思います。

なお、理事としての一週目。相談する女子力はありませんが、少し慣れ、助けてもらえばかすてはなぐ新しく理事さんと共に運営に関わっていきたく思います。

担当は一週目と同様はら通部会、傾聴委員会、理事として、また事務局、傾聴委員会には委員としても籍を置いています。

ほら通部会には理事さんのパイプ役として、大変居心地がよく皆さんの仕事ぶり、前向きな姿勢がく勉強になります。事務局委員としてはボランティア不足の解消で南地区のハンディキャップ利用者早期受け入れの件、長年続けてきたハンディキャップ事業の事務処理など。傾聴委員としては、利用者さんの話を聞き一時の安らぎを持っていただけるように、そして傾聴活動者の割の振のなご発起人の皆さんの手助けをして充実した二年を過ごすつもりです。



Twitter

ほらんていあ通信版 ツイッターコーナー

中山道初めて歩きの旅

白倉 すみ江



ハンディキャップは運転手の夫を助け介助のお手伝いを始めました。

夫との旅行は年中行事になっていますが、旧街道歩きは夫の楽しみと興味があります。そんな5月のある日、「今度は木曽路、奈良井宿だけ一緒に行へ」との誘いがあり、風情あふれる宿場町の風景が浮かび思わず「行へ」。期待通りの奈良井宿で、おみやげ五平餅を頬張るワンモア。あつち満足。

ところが次の息尾峠はいきなり急な上り坂。なんとかクリアしたと思ったら「熊出没注意」の看板「熊除けの鐘。カ〜ンと鳴らう」熊にお邪魔しないようにカ〜ンと鳴らう。ながら山中を歩くが辺りの景色に気分は上々でした。

当時は草鞋でここを歩いたのか、この水場で喉を潤したのか江戸の昔の思いを馳せながら峠を越えるところカラムシ林。何となく美しい。思わず大げん息を吸い込みました。

宮ノ越宿手前の田淵では夫が一句「川音(かわね)と若緑(みどり)をわさか田橋」。

やがて中山道中間地点を過ぎ、地元のおじいさんが「渡れるが命の保証はないよ」と言い鑄びいた橋を「大丈夫だよ行こう」といふ夫の言葉でトキトキしながら先に渡る。

木曽福島ではまちなかに我が物顔のサル軍団。何とか無事「関所」を越えました。歩いてみるだけでも楽しい。夫の気持ち少しわかってきました。

まだ行きたいところ。次は山なまキキキがあつちのかま。



ボランティアさん募集!



～視覚障がい者卓球のお手伝い～

- 内容 視覚障がい者対象のスルーネットピンポンの練習相手
や球合いなど
- 日時 毎月第1・第3土曜の13時から15時
- 場所 けやき体育館2階教養室(体育館の場合あり)
- 持ち物 タオル・飲み物・動きやすい服装でご参加ください

*連絡・問い合わせ先
相模原ボランティア協会あじさい連絡所
電話 042(759)7982
相模原市社協 中央ボランティアセンター
電話 042(786)6181



《♪ ほかほかふれあいフェスタ2019♪ 10月12日(土)》 ボランティアさん大募集!!

- | | | | | |
|--------------|-----|--------|-------------|---------------------|
| ① 前日準備 | 5名 | 11日(金) | 18:00~ | あじさい会館6階展示室 |
| ② 広場のテント設営 | 10名 | 12日(土) | 8:00~8:30 | ウエルネス前広場 |
| ③ ホールの準備、手伝い | 5名 | 12日(土) | 8:30~15:30 | あじさい会館ホール |
| ④ スタンプラリー受付 | 4名 | 12日(土) | 9:00~16:00 | あじさい会館1階ロビー |
| ⑤ 総合案内 | 4名 | 12日(土) | 9:00~15:30 | あじさい会館1階ロビー |
| ⑥ ほかほかカフェ | 2名 | 12日(土) | 8:30~15:30 | あじさい会館5階(ボランティア活動室) |
| ⑦ 広場、会場整理 | 5名 | 12日(土) | 10:00~15:30 | ウエルネス前広場 |
| ⑧ 広場のテント片づけ | 10名 | 12日(土) | 15:30~17:00 | ウエルネス前広場 |
| ⑨ 展示室の片づけ | 5名 | 12日(土) | 15:30~16:30 | あじさい会館6階展示室 |



*連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所 : 電話 042(759)7982



《今月のイラスト
...夏はやはり
水遊びが最高》

令和が始まり新元号に
関する色々な行事を目に
することが出来て感動し
ました。そして今夏休み
も終わりが近づきまし
た。毎日家族の予定を聞
いてからの食事の準備も
あつという間に終わりで
す。やれやれ...
(植)

編集後記

お詫びと訂正

ぼらんていあ通信7月号で、2カ所、記載間違
いがありました。訂正してお詫びいたします。

- ① 4ページに掲載しました「このマークは何のマー
ク?」の説明が違っていました。
正しくは、
白杖を頭上50cm程度に掲げて
SOSのシグナルを示している視
覚に障害のある人を見かけたら、進んで声をかけて
支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普
及啓発シンボルマークです。
- ② 3ページに掲載しました「ボランティア活動グ
ループ訪問記」のタイトルが間違っていました。
誤→『視覚障がい者への共感から共生へ!』
正→『聴覚障がい者への共感から共生へ!』

